

IV 選択評価事項B 地域貢献活動の状況

1 選択評価事項B 「地域貢献活動の状況」に係る目的

本学は、学則第1条に「地域社会及び国際社会における文化や生活の向上、産業の発展並びに人々の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする」と規定している。また、2008年に策定した「公立大学法人大阪府立大学の将来像」の中で、基本理念として「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～」を掲げ、教育・研究・社会貢献・大学経営の方針を示している。社会貢献については、「これまでに培った『地域の知の創造拠点』としての地域・行政との関わりを基盤に、高度研究型大学でなくては実現できない社会貢献をめざす」こととし、①府民の生涯学習へのニーズの増大に応え生涯学習拠点としての役割を強化することを目指す「生涯学習拠点の提供」、②圏域に集積する中小企業の発展に資することを目指した産学官連携による「地域経済活性化への貢献」、③環境、食の安心・安全、健康・医療、格差問題等など様々な都市型の課題に直面している大阪のこうした地域課題の解決に資することを目指した「シンクタンク機能の提供」等を推進することとしている。

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①：大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

【観点到る状況】

本学における地域貢献活動の目的及び方針は、「学則」、「公立大学法人大阪府立大学の将来像」及び「中期目標」において定め、それらを実現するための具体的な計画として「中期計画」及び「年度計画」（資料B1-①-a）を定めている。これら目的等は本学構成員には学内委員会等を通じて周知するとともに、ウェブサイトにも掲載し、広く社会一般に公表・周知している。

資料B1-①-a 本学における目的及び方針等

大阪府立大学学則	https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200041.html
公立大学法人大阪府立大学の将来像「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～」	https://www.osakafu-u.ac.jp/info/idea/
公立大学法人大阪府立大学第2期中期目標	https://www.upc-osaka.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/477/chuki_mokuhyo20151222.pdf
公立大学法人大阪府立大学第3期中期目標	https://www.upc-osaka.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/477/chuki_mokuhyo20161025.pdf
公立大学大阪府立大学第3期中期計画	https://www.upc-osaka.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/477/chuki_keikaku170327.pdf
公立大学大阪府立大学平成30年度計画	https://www.upc-osaka.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/477/nendo2018_0329.pdf

【分析結果とその根拠理由】

地域貢献活動の目的等を本学の学則等に定め、それらを実現するための中期計画等を策定するとともに、これらを公表・周知している。

以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

観点B-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

【観点到係る状況】

本学では、2011年度に地域連携・社会貢献の機能を拡充した「地域連携研究機構」を創設し、大学の教育研究と地域社会をつなぐ組織体制を充実させてきた。

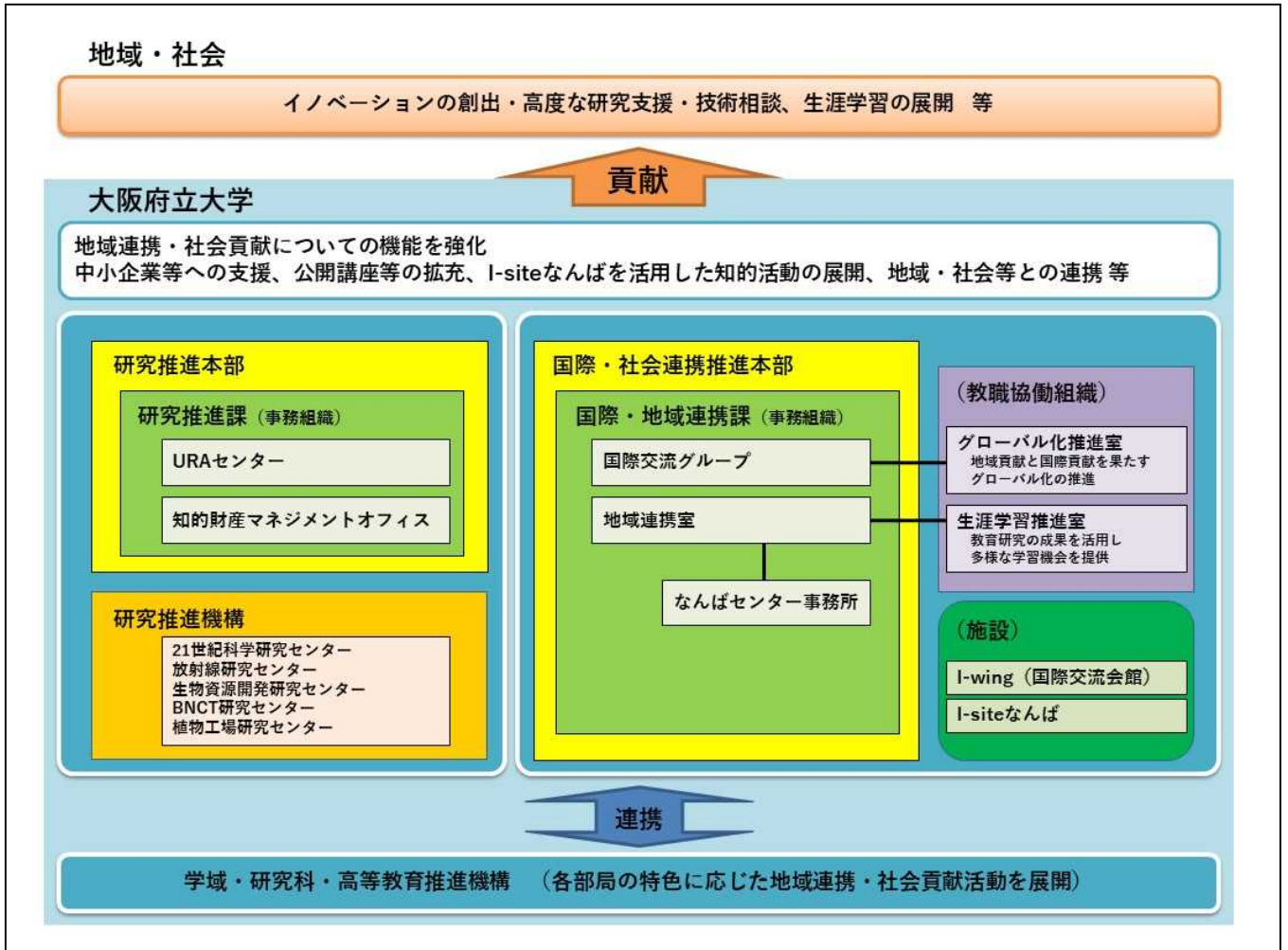
また、2013年度に新たな地域活動の拠点として「I-site なんば」(なんばセンター)を開設し、大阪都心部において、大学の情報発信と知的活動を展開するとともに地域住民に交流の場を提供している。加えて、2015年度に生涯学習推進室を設置し、生涯学習拠点としての機能強化を図っている。(URL B-1, 2)

2017年度から、より戦略策定機能の強化を図るとともに、さらなる地域社会・国際社会の発展に寄与するため理事長・学長を本部長とする「国際・社会連携推進本部」を設置した。また、地域連携研究機構と21世紀科学研究機構の2つの組織を統合し、新たに「研究推進機構」を新設したURL B-3, 4)。研究推進機構に設置されている「21世紀科学研究センター」は府民・府政のシンクタンク機能を担うことを目的の一つとしている(URL B-5)。これら組織のほか、各学域・研究科等が連携して、以下のとおり中期計画等に基づき、全学的に地域貢献活動を行っている(資料B1-②-a)。

<該当資料のURL>

URL B-1	公立大学法人大阪府立大学なんばセンター規程	https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200135.html
URL B-2	大学組織図	https://www.osakafu-u.ac.jp/info/outline/org/
URL B-3	研究推進本部	https://www.osakafu-u.ac.jp/research/collaboration/research_promotion/
URL B-4	研究推進機構	http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/orp/
URL B-5	21世紀科学研究センター	http://www.osakafu-u.ac.jp/academics/orp/21c/

資料B1-②-a 大阪府立大学 地域貢献活動に関連する体制



(出典:事務局資料)

現代システム科学域の教育研究の成果を活かして、特徴ある講座を開設している。(資料B1-②-b)
資料B1-②-b 教育研究の成果を活かした特徴ある講座の事例(2016～2018年度実施分)

主担当部局等	講座名称等	対象	概要	備考
現代システム科学域	大阪府立大学現代システム科学域「連続セミナー」(全6回)	一般	2016年度 「堺エコロジー大学」との連携講座として、「くらしの中の持続可能性」を共通テーマに、本学域の教員が自らの研究テーマに基づいた観点から講演を行った。また、第6回には講演者5名が再度登壇し、共通テーマに基づいてシンポジウムを行った。 2017年度 「堺エコロジー大学」との連携講座として、本学域の教員を講師陣とし、「持続可能な現代社会の創造に向けて」という共通テーマで連続セミナー(全6回)を開催した。 2018年度 「活力ある社会・まち・ひと」を共通テーマに、本学域の教員が自らの研究テーマに基づいた様々な観点から講演を行った。また第6回には講演者5名が再度登壇し、共通テーマに基づいてシンポジウムを行った。	https://www.osakafu-u.ac.jp/press-release/pr20160624/ https://www.osakafu-u.ac.jp/event/evt20170513/ https://www.osakafu-u.ac.jp/press-release/pr20180305/

目的	これまでの地域貢献、社会貢献の取組みと蓄積を活かし、地域志向教育のための学生の教育プログラム開発・導入や、地域と連携した教育・研究の充実を図り、地域再生の拠点となる大学をめざす。
概要等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に研究・地域貢献を体系的に取り込むにあたり、学生の教育プログラムとして地域課題に向き合う実践的学修や、アクティブラーニング(能動的学修)を主体とする「地域再生(CR)副専攻」(CR: Community Regeneration) を新たに設置し、地域志向教育の資源の集中を図る。 ・併せて、学内公募「地域志向教育研究補助金」を創設し、地域と連携し、「地域再生(CR)副専攻」の実習・演習等に貢献し得る教育・研究活動を行っている教員に対して助成を行うこととしている。 (採択を受けると「地域再生(CR)副専攻」の「地域実践演習」等を担当することとなる。) <p>地域志向人材育成プログラム「地域再生(CR)副専攻」必修科目</p> <p>入門科目 「地域再生概論」「地域実践演習」：地域の実態を学び、課題を研究する力を身に付ける</p> <p>導入科目 「アゴラセミナーⅠA」：それぞれの分野の基本的な理解を深める</p> <p>発展科目 「アゴラセミナーⅠB」：地域の課題を分析し、課題解決の手法を学ぶ</p> <p>最終科目 「アゴラセミナーⅡ」：グループごとに研究テーマを決め、地域での実習により、成果をまとめる</p> <p>・本事業は2017年度をもって終了したが、「地域再生(CR副専攻)」は継続して実施している。</p>

その中で、学内公募による地域志向教育研究補助金の支援を受け、地域課題研究に取り組んでいる。(資料B1-②-d)

資料B1-②-d 地域志向教育研究補助金 研究テーマ

年度・実績数	研究テーマ	採択教員の部局名
2016	学習指導スキルの向上におけるケースカンファレンスの役割	現代システム科学域

※年度は採択年度を記載。次年度に「地域再生(CR)副専攻」の「地域実践演習」等を担当することとなる。

(出典:高等教育推進機構)

【分析結果とその根拠理由】

研究推進機構及び国際・社会連携推進本部を中心として、全学的に中期計画等に基づき地域貢献活動を適切に実施している。以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

観点B-1-③： 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

公開講座等実施の際には、必ずアンケートを実施しており、その結果においても受講者が「満足」と回答するなど評価が得られている。

【分析結果とその根拠理由】

全学の公開講座の実施件数はおおむね増加しており、アンケート結果等も良好である。本学域の提供している連続セミナーも好評を得ている。

以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

観点B-1-④： 改善のための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

本学では、「法人評価」、「認証評価」、「自己点検・評価」において、地域貢献活動の状況についても検証している（資料B1-④-a）。

公開講座等実施の際には、必ずアンケートを実施しており、記載された意見・要望等も踏まえながら、講座の内容をはじめ、開催時期、開催回数等、必要に応じて改善している。

資料B1-④-a 評価の基本方針等

大学評価基本方針 <http://www.osakafu-u.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/428/evaluation-policy.pdf>

公立大学法人大阪府立大学計画・評価会議規程

目標・計画等 <https://www.upc-osaka.ac.jp/about/evaluation/oldplan/>

独立行政法人 大学評価・学位授与機構による認証評価結果(平成28年度)

<http://www.osakafu-u.ac.jp/info/evaluation/accreditation/>

自己点検・評価実施要領 http://www.osakafu-u.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/428/evaluation-guideline_s.pdf

大阪府立大学自己点検評価報告書(平成28年6月)

http://www.osakafu-u.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/428/h28_ninnsyou_jiko.pdf

【分析結果とその根拠理由】

自己点検・評価等の中で社会貢献活動の状況を検証している。また個別の取組においても、課題管理やアンケート意見の反映、取組の妥当性の検証・改善等を実施している。

以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

(2) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が極めて良好である。

(3) 優れた点及び改善を要する点**【優れた点】**

全学の研究推進機構及び国際・社会連携推進本部の取組とも連携しながら、積極的にその研究成果を社会に還元している。

【改善を要する点】

今後は更なる質の向上に向けて、地域住民の学習ニーズを的確に把握するとともに、体系化した講座・セミナー等の提供や分かりやすくタイムリーな情報発信等に取り組む必要がある。